

日本の夏は湿度が高く蒸し暑い日が続きます。**むしむしする**なんて言うのと腹立たしく気分が悪い事も意味します。しかしそんな夏を乗り切らねばならないし、死んで先祖に成れば、お盆もくるのです。与謝野晶子は「白桜集」に「づくえか帰る日近きこちしてこの世のものなつかしきころ」と詠む、皆様はどんな時に「生」を意識するだろうか、喜びの時なのか寂しき時なのか、それとも朝、目覚めた時だろうか、人間の死に直面した時に逆の生を思う人もいることでしょうか、それぞれ人夫々に感じかたが異なって当然です。現実には、そうそう生について問うてみる事もないかもしれません。たまには生について考えて見るのも一興です。医学的には白隠禅師の「閑話」の中に「五臓の中に七神あり」とあり、鎌田茂雄氏の注釈によれば、神とは活力なりと、肝蔵には魂・肺蔵には魄・心蔵には神・脾臓には意と智・腎臓には精と志であると記されています。我々が生きているのは呼吸をしているからで、呼吸不全になれば死ぬ事に成ります。五臓六腑というも、一番肝心なもの呼吸器関連の物と言う事に成りましょう。

たくあん 沢庵禅師は今の世に順ずれば道に背く、道に背くまじとすれば、世に順ぜず」と。**親の心掛け、行動が正しくないのに、子供の悪を責めるのは誤りです。**自らの身を正しく持し、その上で意見をなされるなら、自然、素行も改まり、善人となります。善人についてアルバート、シュバイツァ博士は「生命を維持し促進するのは善であり、生命を破壊し阻害するのは悪である」と、昨今、自衛隊が絡む国防の問題で侃侃諤諤です。国民の利益、生命が守られることが第一でしょう。全てに於いて、と言うところに大きな問題が発生すると思われれます。一九四八年に亡くなられたマハトマと呼ばれたガンジーは「暴力が**獣の法則**であるように、非暴力は人間の法則である。」と言われました。世界の現実を見れば暴力が蔓延しているように思われます。

宗教も何の効力も發揮できない状態の処もあります。アイデアに随うも、吉田兼好の徒然草に「世の中というものは測りがたいものであり、確実なものなどない」とあるように、世はまさに時として事態が急変し、災難に遭遇してしまふ事があります。これを**娑婆**というのでしよう。

**娑婆は善きにつけ悪きにつけ執着から多くの問題が生じてきます。**生活は善悪を見極めて進む事ができれば立派です。しかしながら以前にも御話ししました様に、我々の目は目違い、耳は聞き間違いを起こししやすいものです。西行は「迷いて悟りうべくもなかりつる 心を知るは心なりけり」と言う。常に心が定まる事は少なく、時々乱れて心身の不完全燃焼を起こすのでしよう。四国遍路の時だけでなく、私は常に空海大師様が我らと共に同行として歩んで下さると思つて、生活すればまづ間違いを起こすという事はありえないと思ひます。**人間の傲慢さが一歩踏み外す事になりかねません。**法然上人は「たとい一代の方をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして云々、ただ一向に念佛すべし」と、謙虚な姿勢で愚かな人間であるという自覚をして念仏（生活）せよと。